

地域における音楽活動の可能性について
—阪神間の病院における院内音楽活動アンケートの報告—

津 上 智 実

Summary

Potentiality of Musical Activities in Local Society: Report of a Questionnaire Survey about 'Musical Activities in Hospitals' in 2003

TSUGAMI Motomi

As part of our new project 'Outreach in Music' of the Music Department of Kobe College, a questionnaire survey about 'Musical Activities in Hospitals' was conducted in the summer of 2003 on 94 hospitals holding more than 200 beds within the area between Osaka and Kobe. The questionnaires were sent and collected by post. The response rate was 71.3 percent.

The findings from this survey are as follows. First, 75 percent of the hospitals concerned give concerts and some musical activities to their patients, and 81 percent of them are planning to continue or increase such opportunities. Second, 65 percent of them have some musical instruments and 62 percent have a section in charge of their musical activities. Both factors are evidently contributory. Third, sites for musical events are normally hospital's waiting rooms or entrance halls, which are not designed for music but applied to it through some arrangement.

Forth, main occasions of hospital concerts are Christmas, Tanabata (Japanese summer festival) and the Day of Nursing in May. One third of the hospitals concerned give concerts once or twice a year, but more than one tenth of them, to my surprise, do more than once a month, or even twice a week in the most active case. Many hospitals hope to give concerts regularly, but some of them have difficulties in continuing and giving variety to their musical activities, which could be relieved with the assistance of some professionals in music.

Fifth, the rate of the hospitals offering concerts are obviously related to (1) how big they are (44 percent for the hospitals with 200–299 beds, 71 percent for 300–399, 91 percent for 400–499 and 100 percent for more than 500. However it must be pointed out that some smaller hospitals are very active notwithstanding.), to (2) how publicly they are operated (prefecture, city, private), and to (3) how urbanized their location is.

Musical opportunities in hospitals seem to be increasing in accordance with growing interest in the 'client service' concept. It is expected that this report of the questionnaire be of some help in furthering musical activities in hospitals.

1) 本論の目的

神戸女学院大学音楽学部では2年前から「音楽によるアウトリーチ」という新しい試みに取り組んでいる。これは学部における音楽活動ならびに教育活動の場を、大学およびホールの舞台という従来の枠組みから解放して、社会のさまざまなシーンに開いていこうとする試みである。具体的には、1) 小中学校の音楽ならびに総合的学習の時間に、体験的な音楽プログラムを提供する、2) 病院や美術館に、催しの趣旨や季節に合った音楽プログラムを届ける、3) 学内施設を利用して「子どものためのコンサート・シリーズ」を開催する、の3本を柱としている。

昨今、患者の精神的な環境整備のために美術や音楽を活用する病院が増えていることは、新聞報道などからも如実に見て取れる。だがその実態は明らかではない。実際、身近な阪神間の病院においてはどの程度音楽が活用されているのだろうか。

2003年夏、この点を明らかにするために、かつ地域における音楽活動の場を開拓する一助として¹⁾、阪神間の一般病床200床以上の大規模病院94院を対象に「院内での音楽活動に関するアンケート」調査を実施した。このアンケート調査について、その対象と方法、集計の結果について報告するのが本論の目的である。

2) 調査の対象

調査の対象は、「阪神間の一般病床200床以上の病院」とした。具体的には、大阪市内（北部、南部）と北摂地域（豊中市、吹田市、摂津市、池田市、箕面市、茨木市、高槻市、能勢町、豊能町、島本町）、神戸市内と阪神地域（芦屋市、西宮市、尼崎市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町）を調査対象地域としている。これは「音楽によるアウトリーチ」が大学（西宮市岡田山に所在）を拠点として活動することを念頭において、大学からのアクセスが比較的容易な地域に限定したためである。

これらの地域について、『2002年版近畿病院情報』²⁾（医事日報社、2002年10月11日発行）の記載データを基に一般病床200床以上の病院を選んだところ、大阪市内北部24院、同南部18院、北摂（大阪府下北西部）地域17院、神戸市内20院、阪神（兵庫県下南東部）地域15院の計94院となった³⁾。市区町村別の病院数については【表15】「市区別の対象病院数と院内音楽活動実施の有無」に掲げている⁴⁾。

3) 調査の方法

郵送によるアンケート調査用紙の配布と回収を行った。

調査用紙の質問事項は、院内における音楽活動について、1) 現在の実施の有無、2) 今後の実施予定の有無、3) 場所の有無、4) 楽器の有無、5) 担当部署の有無、6) 希望の音楽

的内容（7つの選択肢から複数回答可）、7）現在の実施状況についての自由記述、8）今後の実施予定についての自由記述、9）本学の「音楽によるアウトリーチ」活動に対する興味の有無、10）担当者名と連絡先、を問うものとした。その文面は【資料1】の通りである。

2003年7月15日付の病院長宛の依頼状（音楽学部長名による）を添えて送付し、8月末を回収締切とした。締切後、回答のない病院に対しては電話で再度回答を依頼し、最終的に67院からの回答を得ることができた⁵⁾。回答率は71.3パーセントとなった。

【資料1】アンケート調査用紙の文面

院内での音楽活動について（アンケート）

- 1) 貴院ではコンサートなどの音楽活動を院内で実施していらっしゃいますか？
・・・実施している、 実施していない（当てはまる方に丸をつけてください。以下同じ）
- 2) 今後、音楽活動を継続あるいは取り入れていきたいとお考えですか？
・・・考えている、 考えていない
- 3) 院内に音楽活動ができるような空間がありますか？ ・・・ ある、 ない
「ある」の場合、どのような空間ですか？（あるものに丸をつけてください。複数回答可）
ロビー、ホール、プレイ・ルーム、娯楽室、その他（具体的には： ）
- 4) 院内に楽器がありますか？ ・・・ ある、 ない
「ある」の場合、どのような楽器ですか？（あるものに丸をつけてください。複数回答可）
ピアノ（グランド、アップライト）、エレクトーン、電子ピアノ、キーボード、ギター
ピアノカ、トライアングル、カスタネット、マラカス、タンバリン、トーン・チャイム
その他（具体的には： ）
- 5) 院内の音楽活動を担当する部署（あるいは担当者）がおありですか？
「ある」の場合、どの部署ですか？
総務課、庶務課、その他（ ））、ご担当者（ ）
- 6) コンサートの内容としてはどのようなものが望ましいですか？（複数回答可）
(a) 季節にふさわしい音楽（春夏秋冬、七夕、クリスマスなどにちなんだ音楽）
(b) 唱歌やわらべ歌など誰もが知っている曲
(c) アダージョなどのゆったりとした癒し系の音楽
(d) クラシックの名曲
(e) 明るくリズムカルで元気な曲
(f) アニメなど人気の曲
(g) その他（具体的には： ）
- 7) 上記1) で院内の音楽活動をすでに「実施している」と答えられた場合、具体的にはどのような活動ですか？あらましを自由にご記入ください。
- 8) 上記2) で院内の音楽活動を継続あるいは取り入れていきたいと答えられた場合、具体的にはどのような活動をお望みですか？ご希望を自由にご記入ください。
- 9) 神戸女学院大学の「音楽によるアウトリーチ」に関心がおありですか？・・・ある、ない
「ある」の場合、どのような活動をお望みですか？ご希望をご自由にご記入ください。
- 10) 最後に、ご連絡申し上げるべきご担当者のお名前と貴院名、ご連絡先の電話番号をお願い致します。
ご担当者) 貴院名) 電話番号)

4) 回答一覧

各病院からの回答をまとめたものが、「院内の音楽活動アンケート回答一覧」（次ページ以下参照）である。この一覧の列見出しは、左から順に、「病院番号」（記述ならびに識別の便宜上、通し番号を順に振ったもの）、「病院名」「病床数」「経営体」「所在地」（以上4項目については『近畿病院情報』に依る⁶⁾）、そこから先は上記「調査用紙」の質問番号にしたがって、1）現在の実施、2）今後の考え、3）音楽活動の場所、4）楽器、5）担当部署、6）希望の音楽的内容、7）現在行なっている院内コンサートの内容、8）今後希望の活動内容、9）神戸女学院大学の活動への関心と希望、となっている。行1～67の病院の配列順は、第一に市区別（上記2の調査対象地域の記述順）、第二に各市区内では『近畿病院情報』の掲載順に従っている。

5) 集計の結果

各質問項目（1～9）について、その回答を集計したのが【表1～9】である。さらに、院内の音楽活動の有無がどのような要因と結びついているのかを知るために、【表10】病床数の違いによる実施状況、【表11】楽器の有無による実施状況、【表12】担当部署の有無による実施状況、【表13】経営体の種類別による実施状況（その1）、【表14】経営体の種類別による実施状況（その2）、【表15】市区別の対象病院数と実施の有無、において各々クロス集計を行った。

6) 考 察

以上の回答一覧ならびに集計結果から得られる考察は次の通りである。

まず、院内で音楽活動を実施している病院は、回答のあった病院の75パーセントに上り、4院の内3院までがすでに実施していることが明らかとなった（【表1】と【グラフ1】参照）。今後実施を考えている病院はさらに多く、81パーセントに上る（【表2】と【グラフ2】参照）。この二つの数字の差の6パーセント（ $81 - 75 = 6$ ）は、これまで実施していないが、今後実施

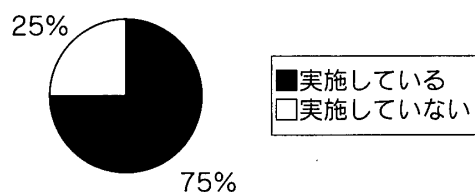
【表1】現在の実施状況

現在の音楽活動	件数	%
実施している	50	75
実施していない	17	25
合計	67	100

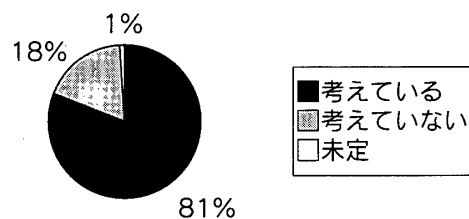
【表2】今後の実施予定

今後の音楽活動	件数	%
考えている	54	81
考えていない	12	18
未定	1	1
合計	67	100

【グラフ1】現在の実施状況



【グラフ2】今後の音楽活動



「院内の音楽活動アンケート」回答一覧

病院 番号	病院名	病床数	経営体	所在地	1)現在の 実施	2)今後 の考え	3) 音楽活動の場所	4) 楽器
1	大阪中央病院	232	健保	大阪市北区	いる	いる	ロビー	グラランド
2	住友病院	478	財団	大阪市北区	いる	いる	講堂	グラランド
3	済生会中津病院	672	済	大阪市北区	いる	いる	ホール、講堂	グラランド、アップライト
4	北野病院	687	財団	大阪市北区	いる	いる	ホール	アップライト、パイプオルガン
5	大阪回生病院	310	会	大阪市北区	いる	いる	ロビー、娯楽室	アップライト
6	関西電力病院	400	会	大阪市福島区	いる	いる	1階ロビー	アップライト、電子ピアノ、ギター
7	大阪晩明館病院	332	社福	大阪市此花区	いる	いる	リハビリテーションルーム	電子ピアノ
8	国立大阪病院	698	国	大阪市中央区	いる	いる	ロビー、ホール、講堂	グラランド、アップライト
9	日生病院	350	財団	大阪市西区	いる	いる	講堂	アップライト
10	多根総合病院	304	特定医	大阪市西区	いない	いる	講堂、会議室、理学療法室	ない
11	千船病院	292	特定医	大阪市西淀川区	いない	いる	会議室、機能訓練室	ない
12	医誠会病院	327	医	大阪市東淀川区	いる	いる	ロビー	電子ピアノ
13	淀川キリスト教病院	607	宗	大阪市東淀川区	いる	いる	チャペル	グラランド、オルガン、キーボード
14	大阪市立十三市民病院	280	市	大阪市淀川区	いない	いる	ロビー	ない
15	済生会野江病院	400	済	大阪市城東区	いる	いる	敷地内看護学校の講堂	グラランド
16	城東中央病院	233	医	大阪市城東区	いない	いない	ない	ない
17	愛染橋病院	277	社福	大阪市浪速区	いない	いない	ない	ない
18	大阪警察病院	580	財団	大阪市天王寺区	いる	いる	ロビー、講堂	アップライト
19	NTT 西日本大阪病院	416	会	大阪市天王寺区	いる	いる	ロビー	ない
20	済生会泉尾病院	350	済	大阪市大正区	いない	いない	ロビー	ない
21	大阪府立成人病センター	500	府	大阪市東成区	いる	いる	ないが、待合場所を活用	講堂にピアノ
22	大阪鉄道病院	320	会	大阪市阿倍野区	いる	いる	ロビー	ない
23	大阪市立大学医学部附属病院	1114	市	大阪市阿倍野区	いる	いる	ない	ない
24	阪和住吉総合病院	203	医	大阪市住吉区	いない	いない	ない	ない
25	大阪府立病院	734	府	大阪市住吉区	いる	いる	講堂	グラランド
26	南大阪病院	460	特定医社	大阪市住之江区	いない	いない	講堂	ピアノ
27	大阪市立住吉市民病院	295	市	大阪市住之江区	いない	いない	ない	ない
28	東住吉森本病院	382	医社	大阪市東住吉区	いる	未定	外来待合	ない
29	長吉総合病院	369	医財	大阪市平野区	いない	いない	講堂、食堂	ピアノ
30	国立療養所刀根山病院	374	国	豊中市	いる	いる	ブレイルーム、体育館	アップライト
31	市立豊中病院	599	市	豊中市	いる	いる	ロビー、ホール	グラランド
32	市立池田病院	264	市	池田市	いない	いない	ロビー	ない
33	箕面市立病院	350	市	箕面市	いる	いる	ロビー、ホール	グラランド
34	済生会吹田病院	500	済	吹田市	いる	いる	ホール	グラランド
35	済生会千里病院	300	財団	吹田市	いる	いる	ロビー	ない
36	大阪大学医学部附属病院	1024	国	吹田市	いる	いる	ロビー	ない
37	済生会茨木病院	315	済	茨木市	いない	いる	ロビー	ない
38	北摂総合病院	217	医社	高槻市	いない	いない	ない	ない
39	大阪医科大学附属病院	1024	学	高槻市	いる	いる	ホール	ない
40	六甲アイランド病院	307	財団	神戸市東灘区	いる	いる	ロビー	アップライト
41	甲南病院	294	財団	神戸市東灘区	いる	いる	ロビー	アップライト
42	神戸大学医学部附属病院	874	国	神戸市中央区	いる	いる	ホール	グラランド
43	神戸市立中央市民病院	962	市	神戸市中央区	いる	いる	会議室	アップライト
44	神戸労災病院	360	労福	神戸市中央区	いる	いる	ロビー	アップライト
45	神鋼病院	333	医社	神戸市中央区	いる	いる	ロビー	アップライト
46	川崎病院	297	医	神戸市兵庫区	いる	いる	待合所	ない
47	鐘紡記念病院	242	会	神戸市兵庫区	いる	いる	ロビー	グラランド
48	神戸中央病院	424	全社連	神戸市北区	いる	いる	ロビー	電子ピアノ
49	神戸市立西市民病院	358	市	神戸市長田区	いる	いる	談話室	アップライト
50	兵庫県立こども病院	290	県	神戸市須磨区	いる	いる	ロビー、ホール	アップライト、エレクトーン
51	国立神戸病院	304	国	神戸市須磨区	いない	いない	ない	ない
52	神戸救済会病院	317	社団	神戸市垂水区	いない	いない	ロビー	ない
53	神戸徳洲会病院	229	特定医	神戸市垂水区	いる	いる	ロビー	アップライト
54	兵庫県立リハビリテーション中央病院	300	県	神戸市西区	いる	いる	ロビー	アップライト、キーボード、小楽器(注)
55	兵庫県立のじぎく療育センター	220	県	神戸市西区	いる	いる	ホール	グラランド、キーボード
56	西神戸医療センター	400	財団	神戸市西区	いる	いる	ホール、大会議室	ない
57	兵庫県立尼崎病院	500	県	尼崎市	いる	いる	ロビー、ホール	アップライト
58	関西労災病院	670	労福	尼崎市	いる	いる	ロビー、ホール	グラランド
59	兵庫県立塚口病院	400	県	尼崎市	いる	いる	ロビー	アップライト、キーボード
60	公立学校共済組合近畿中央病院	453	学共済	伊丹市	いる	いる	ロビー、講堂	アップライト
61	市立伊丹病院	414	市	伊丹市	いる	いる	ロビー、ブレイルーム	アップライト
62	第二協立病院 (注)	225	医社	川西市	いない	いる	ホール	アップライト、今後増やしたい
63	市立川西病院	283	市	川西市	いない	いない	ない	ない
64	宝塚市立病院	480	市	宝塚市	いる	いる	講堂	グラランド
65	市立芦屋病院	272	市	芦屋市	いる	いる	ロビー	グラランド
66	三田市民病院	300	市	三田市	いる	いる	ロビー	ない
67	国立療養所兵庫中央病院	549	国	三田市	いる	いる	ロビー、ホール、ブレイルーム	ピアノ
注記	注) 2003年10月1日開院		注) 表 13参照					注) トライアングル、カステネット、マ カス、タンバリン、トーン・チャイム

「院内の音楽活動アンケート」回答一覧

病院 番号	5) 担当部署	6) 希望の音楽的内容	7) 現在行っている院内コンサートの内容
1	広報委員会	abcd	去年クリスマスコンサート、今年5月自動ピアノ設置し定時演奏
2	総務課	abd	ヒーリング(癒し)コンサート
3	病院サービス委員会	abcdef	看護学生ボランティアでピアノ演奏、外来患者の待ち時間・入院患者の憩い
4	庶務課、イベント委員会	abce、琴	月2回ほど院外ボランティアによるコンサート、平日15時から1時間
5	庶務課	abcde	「再生イブニングコンサート」H6年から12回実施。クラシック、ボサノバ、ゴスペルなど。
6	庶務課	a	—
7	ある	a	年2回：七夕コンサート、クリスマスコンサート(新入看護師のハンドベル演奏)
8	ボランティア・コーディネータ	abd	患者向け院内コンサート年2回実施
9	ない	abdf	通院患者の好意でヴァイオリン演奏、ボランティア団体の演奏
10	総務課	abcdef	—
11	患者サービス向上対策委員会	bef	—
12	広報室	abcdef	週2回ピアノ・ボランティア木/土13時～13時半、ピアノと大正琴のコンサートを3、4ヶ月に一度
13	ない	cdg：讃美歌等	伝道部主催のコンサートを年2回(春・秋)
14	ない	ade、演歌	—
15	総務課	af	5月上旬土曜午後「看護の日」記念コンサート(中学吹奏楽部やママさんコーラス)
16	ない	ab	—
17	ない	—	—
18	庶務課患者サービス委員会	abcdef	5月の看護フェア、サマー、クリスマスなど年2、3回
19	看護部	b d e	年1回NTT西日本吹奏楽団によるコンサート
20	総務課	bd	4年前までやっていたが、やめている
21	総務課	abc	癒しのコンサートとして実施(関係者の紹介で)
22	総務課	abd	クリスマスコンサート、ふれあいコンサート
23	ない	a	医学部学生によるコンサート
24	ない	—	—
25	ない	bdef	看護の日(年1回)イベント内コンサート、クリスマスコンサート
26	ない	ac	—
27	ない	c	—
28	ない	ab	入院患者対象「七夕コンサート」「クリスマスコンサート」で軽音楽
29	ない	ab	—
30	庶務課・庶務係長	abdeg：民謡	ボランティアによる院内コンサート、感染しないよう配慮しつつ
31	病院管理課	abdf	月2回ロビーコンサート、年6回ランチタイムコンサート、5月看護週間、12月クリスマスコンサート(注)
32	ない	—	—
33	ない	abdeg：クラシックをポップスにアレンジ	開院記念日(7/7)とクリスマスにボランティアによる演奏会
34	ない	ac	七夕コンサート、クリスマスコンサート(院内有志、地域ボランティア)
35	総務課	abdeg：懐メロ	年1回アメニティコンサート(職員紹介によるため継続性に問題)
36	総務課文書法規課	abfg：演歌など	七夕コンサート、クリスマスコンサート
37	管理課	ab	—
38	ない	—	患者の病状も色々で院内ではむずかしい、場所もない
39	病院サービス課	bcd	入院患者向け院内コンサート、出演は学生・教職員
40	ない	abd	月1回ロビーコンサート、看護の日コンサート、クリスマスコンサート
41	看護部	abdeg：映画音楽	年4回春夏秋冬に開催、ボランティアによる演奏
42	院内コンサート企画委員会	abfg	年3、4回程度開催(今年5月で15回目)
43	庶務課、医事課	ace	年4回神戸市混声合唱団、年1回須磨ニュータウン少年少女合唱団
44	ない(注)	abce	職員有志、外部ボランティアによるコンサートを定期的に
45	研修委員会	acdeg：映画音楽、懐メロ	3年ほど前から2ヶ月に1回実施で好評
46	総務課	ab	職員によるクリスマスコンサート
47	渉外係	abf	月1回ミニコンサート(1時間程度)、101回終了
48	ない	abcde	クリスマスコンサート、緩和ケア病棟での音楽会
49	総務課	ab	年3回院内コンサート実施、ボランティアに近い活動として
50	ない	abf	入院児向けクリスマスコンサート、手術患者向け音楽療法
51	ない	abe	—
52	ない	ac	—
53	総務課	abcde	H14年11月より月1～2回実施、プロによる器楽、最近セミプロの出演希望増加
54	医事調整課	abcdef	年1回秋～冬ボランティアによるコンサート(独奏唱、合唱など)
55	医事指導課	abef	不定期でボランティアによるコンサート。週1回外来患者向け音楽療法。
56	医事課	ab	神戸市混声合唱団「こんにちがコンサート」を年2回実施
57	総務課	a	クリスマスコンサート(12月中・下旬2回)に市民ボランティアや音大生
58	患者サービス委員会	abcdef	H14年度までは年4回、H15年度ピアノ寄贈により毎月
59	総務課	abcd	年1回秋にフロアコンサート、音楽療法士が非常勤で勤務
60	庶務課	abc	30分のロビーコンサート3回、1時間の講堂コンサート1回実施
61	患者サービス向上委員会	abcdef	クリスマス・ロビーコンサート(大阪府医師会フィル)、随時ミニコンサート
62	ない(ふさわしいのはどこ?)	abc	新病院のオープンにより今後展開したい
63	ない	ac	—
64	総務課、看護部	ab	年4回季節にふさわしいコンサート
65	ない(ボランティアとして実施)	abcde	月1回程度、市内在住ピアニストが世話人
66	業務課医事係	abe	12月下旬クリスマスコンサート約1時間
67	指導室	abcd	不定期にボランティアで(ピアノ、歌唱、ヴァイオリンなど)
注記	注) ないが、庶務課、看護部、患者サービス委員会などで実施。	注) 「—」は「記入なし」の意(以下同様)。	注) 市立豊中病院：月2回北摂音楽ボランティアグループによるロビーコンサート、年6回大阪音大関係者によるランチタイムコンサート、5月看護週間、12月クリスマスコンサート

「院内の音楽活動アンケート」回答一覧

病院 番号	8) 今後希望の活動内容	9) 神戸女学院大学の活動への関心と希望
1	癒しがモットー、土曜午後には年何回か	ある、癒しに関するアンケート調査には協力する
2	講堂で実施のため室内楽限定、70～80名参加	患者とともに楽しめる曲を
3	月1回「音楽の夕べ」30分位を、イベントに参加を	ピアノ演奏だけでなくコーラスなどもあるとよい
4	—	近辺住民にも楽しんでもらえる音楽会を
5	患者の癒しになれば何でも	ある
6	—	ない
7	関学マンドリン・クラブ、地域のコーラスなど	演奏指導や合同演奏を
8	現在のものを継続、拡大	院内コンサートへの参加など
9	サービス向上と安らぎを目的とした音楽提供	院内での定期的な音楽活動を希望
10	入院患者様へ定期的な演奏会の開催	ある
11	毎年9～10月にある健康まつりへの参加、定期的なコンサート	健康まつりに参加してほしい
12	継続していきたい	協力頂ければ幸い
13	従来通り継続	ある
14	年1回ミニコンサート90分、平日19:30～21:00、謝礼大阪市規定	わかり易い歌唱付き演奏、活動の継続性
15	毎年5月「看護の日」の演奏希望	どのようなメニューがあるか内容を知りたい
16	—	ロビーに余裕があれば、季節感のある小さな演奏会を
17	—	ない
18	各種ジャンルを、小編成のバロック音楽を	定例開催（土曜の午後など）
19	従来のを継続	ない
20	—	—
21	コンサート、歌	—
22	季節のイベントとして、癒し、交流を深める	—
23	医学部学生の音楽活動	ない
24	—	急性期病院の特性を理解して実施できるなら
25	前記コンサートも含め年数回開催	ある
26	—	ない
27	—	ない
28	—	—
29	—	いまのところ特にない
30	病状によってコンサートへの参加を限定	対象者と広報を限定してよいならお願いしたい
31	ピアノ中心にヴァイオリン、フルート等の重奏、クラシック、映画音楽	多くの開催は望めないが、ピアノ、歌唱を
32	—	—
33	年2回、院外ボランティアによる演奏会開催	イベント時にボランティアで演奏を
34	ホールでの音楽活動、テーブル等による音楽療法	ヒーリング等の音楽活動
35	季節の演奏会、楽器教室、楽器体験など、生きる希望となるものを	定期的に地域住民への健康講座、そこに協力を
36	闘病の支えとなるような楽しいものを	演奏者と観客の患者が一緒に楽しめるものを
37	—	年数回定期的に活動してほしい
38	—	—
39	毎年秋に実施しているが、春にも実施を。	ある
40	季節にふさわしく、幅広い演目で	活動歴を見た上で、ぜひお願いしたい
41	リハビリテーションに音楽運動療法、メンタルサポートの一つとして、脳の活性化など	月1回の定期的演奏会の開催を
42	活動継続（院内外より参加者募集）	院内コンサートに参加を
43	未定（新規分については院内規定がない、物理的に不可能）	—
44	同様に実施継続	参加型コンサートを希望
45	今後も継続	ヴァイオリン、チェロ、フルート等のアンサンブルを
46	現在年1回を年2～3回に増やしたい	ある
47	従来のを継続	ミニコンサート出演を
48	—	活動内容を知りたい
49	従来のを継続	クリスマス・コンサートに出演を
50	定期的な演奏会を	ない（アウトリーチとは何か？）
51	—	入院患者の心を癒せるような活動を
52	—	ない
53	患者サービスと地域へのアピールを実現するべく	ぜひ演奏してほしい
54	—	ある
55	低年齢の子どもが楽しめるコンサートを希望	子ども向けコンサート（参加型）を
56	ボランティアによるコンサートも企画	ない
57	年に数回開催したい	協力頂けるならぜひお願いしたい
58	共に歌い楽しめる活動を	一度お目にかかりたい
59	年に2、3回の開催を予定	趣旨が合えばぜひ協力を、音楽療法に興味あれば連絡を
60	年2、3回夕方30分程度のロビー・コンサートを	わからない
61	幅広い年齢層が参加し感動できる音楽会を	ある、活動内容を知らせてほしい
62	季節、行事に合わせた生の演奏を	ある、緩和ケア病棟立ち上げ構想に意見を
63	—	場所はないが、患者が楽しめる音楽を希望
64	患者の入院生活に癒しを与える活動を	ある、院内でのコンサート活動を
65	現行（クラシック系1時間以内）の継続	体験の場として病院を利用してほしい
66	明るい曲で気持ちを和らげられるものを	ある
67	—	演奏をしてもらいたい
注記		

していききたいという意向を持つ病院がそれだけあることを示している⁷⁾。

【表3】音楽活動の空間の有無

音楽活動の空間の有無	件数	%
ある	58	87
ない	9	13
合計	67	100

【表3a】音楽活動に用いられる空間

場所	件数
ロビー、待合	36
ホール	15
講堂	12
会議室	4
プレイルーム	3
娯楽室	1
談話室	1
チャペル	1
食堂	1
理学療法室	1
機能訓練室	1
リハビリテーションルーム	1
体育館	1
ない	9

次に、問3「音楽活動のできるような空間の有無」については、「ある」が87パーセント、「ない」が13パーセントであった（【表3】参照）。具体的にどのような空間が用いられているかをまとめたのが【表3a】である。これを見ると、そもそも何らかの催しや集会をするために設けられた空間としては「講堂」（12件）があるのみで、それ以外は「待合いロビー」（36件）や「（エントランス）ホール」（15件）など院内の大きな空間を転用しているケースが大半であることが分かる。こうした実情を如実に表すのが、「（場所は）ないが、待合い場所を活用」という大阪府立成人病センター（no.21）からの回答である。一方、「プレイルーム」（3件）や「娯楽室」（1件）、「談話室」（1件）は患者のアメニティーに資するために設けられた空間であり、ここで患者向けの音楽活動を行うのは空間の本来の目的に適ったものと言える。また、「理学療法室」（1件）、「機能訓

練室」（1件）、「リハビリテーションルーム」（1件）での実践は音楽療法的な意味合いを帯びたものと考えられる。他に「会議室」（4件）や「チャペル」（1件）、「食堂」（1件）、「体育館」（1件）を転用している例がある。これを見ると、院内にそもそも音楽活動のために設けられた空間を持つ病院は見当たらず、どこも院内の大きな空間を工夫して活用しているという実態が浮かび上がってくる。したがって、スペースに関しては工夫次第ということになる。

問4「楽器の有無」については、「ある」が64パーセント、「ない」が36パーセントであった（【表4】と【グラフ3】参照）。具体的にどのような楽器があるかをまとめたのが【表4a】である。これを見ると、「グランド・ピアノ」（16件）、「アップライト・ピアノ」（22件）ないしは「ピアノ」（5件）を備えるところが計43件に上り、64パーセントの病院はピアノを備えていることが分かる。北野病院（no.4）と淀川キリスト教病院（no.13）にはオルガンないしはパイプ・オルガンが設置されている。トライアングル、カスタネットなどの小楽器はリハビリテーション用とされている。

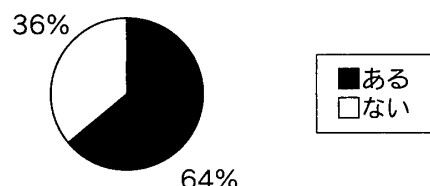
楽器の有無と実施率との相関を調べてみると、結果は如実である（【表11】および【グラフ5】参照）。楽器がある病院での実施率は93パーセントに上るのに対し、楽器がない病院では42パーセントにとどまる。だが同時にこの数字は、楽器がない病院においても、何らかの方法によって音楽活動を実践しているところが半数近くあることを示している。たとえば楽器をリースする、あるいは演奏者に持ち込んでもらうといった方法が採られている。

いくつかの事例は、楽器、なかでもピアノの存在が音楽活動の活性と深く関わることを示し

【表4】楽器の有無

楽器の有無	件数	%
ある	43	64
ない	24	36
合計	67	100

【グラフ3】楽器の有無



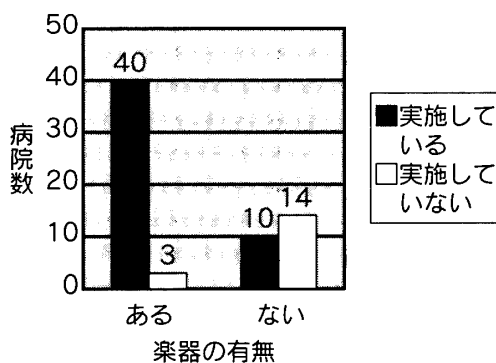
【表4a】楽器の種類

楽器	件数
グランド・ピアノ	16
アップライト・ピアノ	22
ピアノ	5
電子ピアノ	4
エレクトーン	2
キーボード	3
パイプ・オルガン	1
オルガン	1
ピアノカ	1
ギター	2
トライアングル	2
カスタネット	2
マラカス	1
タンバリン	1
トーン・チャイム	1

【表11】楽器の有無による実施状況

楽器の有無	病院数	実施している	いない	実施率
ある	43	40	3	93%
ない	24	10	14	42%

【グラフ5】楽器の有無と実施状況



ている。まず関西労災病院（no.58）では平成14年度までは年4回（看護の日、七夕コンサート、夕焼けコンサート、クリスマス・コンサート）開催であったが、平成15年1月のピアノの寄贈に伴い、平成15年度からは毎月開催となった。病院からの回答によれば、「平成14年度までは形式的活動」であったが、平成15年度からは患者ならびに職員にとっての「癒しの空間作りとしての活動」と位置づけて積極的に展開されている様子である。また市立豊中病院（no.31）も平成11年12月に豊中市医師会からグランド・ピアノの寄贈

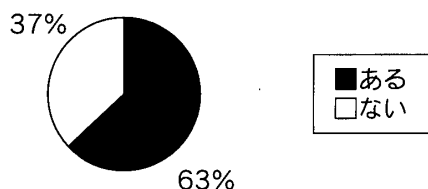
を受け、このピアノを中心とした演奏活動が月2回定例で行われる他、多様な活動が展開されている。ピアノ（特にグランド・ピアノ）は独奏楽器としても伴奏楽器としても有用性の高い楽器であり、これが設置されていることは音楽活動の幅を広げると同時に、活動の持続性に基盤を与えるものと考えられる。

問5「担当部署の有無」については、「ある」が62パーセント、「ない」が38パーセントであった（【表5】と【グラフ4】参照）。具体的にどのような部署が担当しているかをまとめたのが【表5a】である。これを見ると、総務課（14件）、庶務課（8件）、医事課関連（5件）、看護部（4件）が担当することが多いと分かる。専用の「院内コンサート企画委員会」を設けているのは1院のみで⁸⁾、むしろ「病院サービス委員会」（1件）や「患者サービス（向上、向上対

【表5】担当部署の有無

担当部署	件数	%
ある	42	63
ない	25	37
合計	67	100

【グラフ4】担当部署の有無



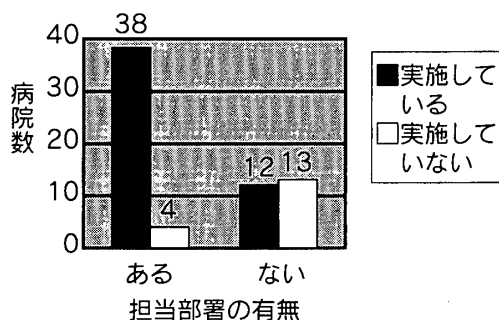
【表5a】音楽活動の担当部署

担当部署	件数
総務課	14
庶務課	8
医事課	2
医事指導課	1
医事調整課	1
業務課医事係	1
管理課	2
病院サービス課	1
看護部	4
渉外係	1
指導室	1
広報室	1
広報委員会	1
病院サービス委員会	1
患者サービス委員会	2
患者サービス向上委員会	1
患者サービス向上対策委員会	1
イベント委員会	1
研修委員会	1
ボランティア・コーディネータ	1
院内コンサート企画委員会	1

【表12】担当部署の有無による実施状況

担当部署	病院数	実施している	いない	実施率
ある	42	38	4	90%
ない	25	12	13	48%

【グラフ6】担当部署の有無と実施状況



策)委員会」(計4件)ないしは「病院サービス課」(1件)において、患者サービスの一環として企画・運営されていることが多い。なお、院内コンサートの運営・実施が病院職員のボランティア活動に任されている事例も見受けられるが⁹⁾、病院でのコンサートは、通常のコンサートの準備に加えて、場所の転用(受付ロビーの椅子を並べ替えての会場設営など)や患者の搬送と安全確保など、運営側に大きな負担を伴うものである。職員の好意に依存した運営では自ずと限界があると考えられ、患者サービスの一環として業務の中に位置づけることが今後望まれるだろう。

担当部署の有無と実施率との間にも同様の相関が見て取れる(【表12】と【グラフ6】参照)。担

当部署が「ある」場合の実施率は90パーセントに上るのに対し、「ない」場合の実施率は48パーセントに留まる。だがこの数字は逆に、担当部署がなくても半数近くの病院が実施していることを語っている。

問6「希望の音楽的内容」としては、「a:季節にふさわしい音楽(春夏秋冬、七夕、クリスマスなどにちなんだ音楽など)」(56件)が最も多い(【表6】参照)。これは【表7a】にみるように、病院でのコンサートが季節の行事として実施されている場合が多いことと結びついている。次に多いのは「b:唱歌やわらべ歌など誰もが知っている曲」(49件)で、それに「d:クラシックの名曲」(30件)、「c:アダージョなどのゆったりとした癒し系の音楽」(29件)、

【表6】希望の音楽的内容(複数回答)

希望内容	件数
a: 季節にふさわしい音楽	56
b: 唱歌やわらべ歌	49
c: 癒し系の音楽	29
d: クラシックの名曲	30
e: 明るくリズムミカルな曲	26
f: アニメなど人気の曲	17
g: その他	8

注) 「g: その他」の内容は、映画音楽2、演歌2、懐メロ2、民謡1、琴1、クラシックをポップスにアレンジ1、讃美歌1。

【表7】現在の実施頻度

現在の実施頻度	件数
週2回	1
月2回(程度を含む)	2
月1~2回	1
月1回(程度を含む)	4
年8回	1
年6回	1
年5回	1
年4回	2
年3~4回	2
年2~3回	2
年2回	10
年1回(程度を含む)	12
年数回	2
定期的(?を含む)	4
不定期、随時(?を含む)	5
不明	2
0回	17

【表7a】演奏の機会の多いもの

演奏の機会の多いもの	件数
看護の日(5月)	5
七夕(サマー1件を含む)	6
クリスマス	19

【表8】今後の活動希望

今後の活動希望	件数
現在のを継続	9
0回→定期的に	4
現状不明→定期的に	2
年1回→年数回に	4
年2回→拡大	2

「e: 明るくリズムミカルな曲」(26件)が続く。いずれにしても聞き覚えのある曲や、耳になじみのある曲が好まれるというコメントを複数の病院から頂戴した。

問7「現在行っている院内コンサートの内容」は自由記述式による回答で、概要の説明のみならず実際のプログラムや関連資料のコピーを添付してくださった病院もあり、回答一覧にはそれらの要点を書き抜いた。したがって特に実施頻度を問うたものではなかったが、記述から分かる範囲で実施頻度をまとめてみたのが【表7】である。ここから知られるように、院内コンサートの実施頻度は年1回(12件)ないしは2回(10件)が最も多く、その大半はクリスマス・コンサート(19件)や七夕コンサート(6件)、看護週間にちなむコンサート(5件)として、いわば季節の行事として行われていることが分かる(【表7a】参照)。

一方、実施頻度の高いところとしては週2回(1件)、月2回(2件)、月1~2回(1件)、月1回(4件)があり、以上をまとめると、毎月1回以上実施している病院は計8件で全回答数の1割を越える。すなわち10院に1院は毎月1回以上実施しているということになる。これらの大半は曜日や時間の決まった定例開催で、特定のグループないしはコーディネータの協力を得たりしている¹⁰⁾。より少ない負担で実効を上げるための工夫と言えるだろう。また神戸徳洲会病院(no.53)の例に典型的に見られるように、こうした病院では患者サービスのみならず、地域サービスとして地域住民に対するアピールを視野に入れていることも特徴的である。

問8「今後希望の活動内容」も自由記述式の回答で、特に実施頻度を問うたものではないため不明のものも多いが、ある程度の傾向は見えて取れる(【表8】参照)。まず「現在のを継続」が9件あり、「現在は実施していない(ないしは現状不明である)が今後定期的に開催していきたい」とするものが計6件、「年1回を年数回に」ないしは「年2回を今後拡大したい」とするものが計6件あり、現状の維持または拡大、特に定期的開催を望む声が多い。廃止ないしは縮小を考えているというところ

はなかった。

【表9】女学院の活動への関心

女学生への関心	件数	%
ある	49	73
ない	10	15
わからない	1	2
回答なし	7	10
合計	67	100

問9「神戸女学院大学の活動への関心と希望」については、関心が「ある」が49件で73パーセントを占め、「ない」が10件（15パーセント）、「分からない」が1件、回答なしが7件であった。具体的にどのような活動を希望するかについては、院内コン

サートへの出演が最も多く、中でも「定期的な演奏活動」ないしは「活動の継続性」を求めるものが6件あることが特記される¹¹⁾。毎回一から相談してその度毎に作っていくのは負担が大きいため、最初にルールを作って定例開催する方が現実的であるという判断が働いていると思われる。継続性については、済生会千里病院（no.35）からも「職員紹介によるため継続性に問題が生じている」という指摘が上がっている。院内の演奏に多様性と持続性を持たせるためには、それなりのノウハウが必要であろう。

最後に、「病院の規模（病床数の違い）」、「経営体の種類」、「所在の地域別」と実施率との相関について考えてみたい。

【表10】病床数の違いによる実施状況

病床数	病院数	実施している	いない	実施率
200～299	18	8	10	44%
300～399	21	15	6	71%
400～499	11	10	1	91%
500～599	6	6	0	100%
600～999	8	8	0	100%
1000～	3	3	0	100%
合計	67	50	17	平均 75%

まず「病床数の違いによる実施状況」（【表10】参照）であるが、病床数が200～299床では実施率44パーセント、300～399床では71パーセント、400～499床では91パーセント、500床以上では100パーセントと、大規模病院になるほど実施率は高くなることが分かった。とはいえこれはあくまでも全体的な傾向であり、週2回実施の医

誠会病院（no.12）は病床数327床、月1～2回実施の神戸徳洲会病院（no.53）は229床、月1回実施の鐘紡記念病院（no.47）は242床と、病院規模がさほど大きくなくても活発に活動している病院があることを忘れてはならない。

次に「経営体の種類別による実施状況」であるが、【表14】に見るように、国立病院で実施率83パーセント、公立（府・県・市立）病院で80パーセント、民間の病院で71パーセントとなっており、公共性の高い病院ほど実施率が高いと言ってよい。実際、【表13】に見るように、国立病院で実施していないのは6院中1院のみであり、府立・県立病院では全院が実施、市立病院で実施していないのは13院中4院と限られている。一方、医療法人においては38パーセント（全13院中5院）と実施率が低い¹²⁾。

第三に「地域別の実施率」であるが、【表15】に見られるように、神戸市内では実施率88パーセント、兵庫県下阪神地域で82パーセント、大阪市内北部で76パーセント、大阪府下北摂地域で73パーセント、大阪市内南部で62パーセントと地域によってかなりの開きがあることが明らかとなった。これは都市化の程度と相関していると考えられる。人口稠密で病院間の競合が強

いところほど、患者サービスによる差異化が図られていると理解することができるだろう。

【表13】経営体の種類別による実施状況（その1）

経営体	病院数	実施している	いない	実施率
国	6	5	1	83%
府	2	2	0	100%
県	5	5	0	100%
市	13	9	4	69%
労働福祉事業団	2	2	0	100%
公立学校共済組合	1	1	0	100%
全国社会保険協会連合会	1	1	0	100%
医療法人	4	2	2	50%
医療法人社団	4	2	2	50%
医療法人財団	1	0	1	0%
財団法人	8	8	0	100%
社団法人	1	0	1	0%
社会福祉法人	2	1	1	50%
学校法人	1	1	0	100%
宗教法人	1	1	0	100%
社会福祉法人恩賜財団済世会	5	3	2	40%
特定医療法人	3	1	2	33%
特定医療法人社団	1	0	1	0%
健康保険組合及び連合会	1	1	0	100%
会社	5	5	0	100%
合計(実施率については平均)	67	50	17	75%

注) 経営体名の太文字部分が、「院内の音楽活動アンケート回答一覧」の「経営体」欄における略号である。

【表14】経営体の種類別による実施状況（その2）

経営体	病院数	実施している	いない	実施率
国	6	5	1	83%
府・県・市	20	16	4	80%
民間	41	29	12	71%
合計(実施率については平均)	67	50	17	75%

7) 結び

阪神間の一般病床200床以上の病院94院を対象とした今回の「院内の音楽活動アンケート」調査によって、すでに多くの病院（4院中3院まで）が院内コンサートを実施しており、今後も継続ないしは拡大を望んでいることが明らかとなった。10院中1院以上が月1回以上実施しているというのは予想以上の頻度で、驚きであった。病院という場においてそれだけ強く音楽が求められ、また病院側もそれを提供する努力を重ねているという実態が浮き上がってきたと言える。

具体的な回答の文面からも、「娯楽の少ない入院生活の中で大変喜ばれ」(no.44)、「闘病の支え」(no.36)、「精神的な支えになっている」(no.31)、「患者の入院生活に癒しを与える」

【表15】地区別の対象病院数と院内音楽活動実施の有無

行政区	区	病院数	回答数	実施している	いない	実施率
大阪市内北部	北区	6	5	5	0	
	都島区	2	0	1	0	
	福島区	2	1	1	0	
	此花区	2	1	1	0	
	中央区	2	1	1	0	
	西区	3	2	1	1	
	西淀川区	1	1	0	1	
	東淀川区	2	2	2	0	
	淀川区	1	1	0	1	
	旭区	0	0	0	0	
	城東区	3	2	1	1	
	鶴見区	0	0	0	0	
小計		24	16	13	4	76%
大阪市内南部	浪速区	2	1	0	1	
	天王寺区	4	2	2	0	
	港区	1	0	0	0	
	大正区	1	1	0	1	
	東成区	1	1	1	0	
	生野区	1	0	0	0	
	阿倍野区	2	2	2	0	
	住吉区	2	2	1	1	
	住之江区	2	2	1	1	
	東住吉区	1	1	1	0	
	平野区	1	1	0	1	
	西成区	0	0	0	0	
小計		18	13	8	5	62%
北摂地域	豊中市	2	2	3	0	
	池田市	1	1	0	1	
	箕面市	1	1	1	0	
	吹田市	5	3	3	0	
	摂津市	0	0	0	0	
	茨木市	3	1	0	1	
	高槻市	5	2	1	1	
小計		17	10	8	3	73%
神戸市内	東灘区	2	2	2	0	
	灘区	0	0	0	0	
	中央区	4	4	4	0	
	兵庫区	3	2	2	0	
	北区	2	1	1	0	
	長田区	1	1	1	0	
	須磨区	3	2	1	1	
	垂水区	2	2	1	1	
阪神地域	西区	3	3	3	0	
	尼崎市	3	3	3	0	
	伊丹市	2	2	2	0	
	川西市	2	2	0	2	
	宝塚市	1	1	1	0	
	西宮市	4	0	0	0	
	芦屋市	1	1	1	0	
	三田市	2	2	2	0	
小計		15	11	9	2	82%
総計		94	67	51	17	75%

(no.64)、「病気との闘いに心身共にストレスのかかった入院生活の中で、『癒し』となる」(no.1)、「沈みがちな気分を緩和するほか、『生きる希望』や『人生を見直す機会』といった反響が期待できる」(no.35)というように、病院という特殊な環境においては音楽が常にも増して大きな働きをすることが読み取れる。病院は音楽が切実に求められている場であると言ってよい。

このような場の一つ一つに丁寧に音楽を届けていくことも、音楽家の大切な使命の一つではないだろうか。確かにそれは、コンサート・ホールのステージでスポットライトを浴びるような華やかさもなく、地道な仕事ではあるが、たとえコンサートに行きたくても外出の許されない人々のもとへこちらから出向いて演奏を届けることは、人間の営みとして高い意義を持っていると思われる。病院でのコンサートは、本来演奏用に考えられたのではない空間で演奏せざるを得ず、音響面やまた楽器の点でも不十分なことが多く、演奏の環境としては厳しいものである。だが個々の具体的な問題や困難さを乗り越える知恵と努力を払ってなお、そこには演奏する価値が光り輝いていると感じられてならない。

音楽大学の教育として、演奏の技術はもちろんのこと、音楽の社会的な意義に関する視点を与えて育てることも重要な任務の一つと考える。大学にはリサーチ機能と情報伝達機能が備わっているのであるから、両者を組み合わせることによって、在校生のみならず卒業生たちにも、地域における音楽活動の可能性を開いていきたいと願っている。とりわけ病院における音楽活動の場は、患者サービスの重視に伴って今後ますます可能性が広がっていくことだろう。今回のアンケートがきっかけとなって、すでに演奏依頼を受けて派遣した病院もある¹³⁾。このアンケート結果の報告が、今後各地域の院内音楽活動の活性化に繋がってくれば何よりの喜びである。

注

- 1) 病院ないしは美術館のいずれかを対象にアンケート調査をという提案を授業の中で行ったところ、学生たちの選択は病院であった。音楽会によりアクセスしにくい人々の場である病院を選んだのは、アウトリーチの精神にふさわしいものであったと言える。
- 2) 本書についてご教示くださった本学人間科学部教授西田昌司先生に御礼申し上げます。
- 3) 対象とする病院の規模については最初100床以上で考えていたが、200床以上の病院94院に対し、100床以上199床以下の病院が95院であったため、集計の処理能力を考慮して一般病床200床以上に限定することにした。精神病床、療養型病床、介護型病床は含まれていない。
- 4) なお、摂津市、能勢町、豊能町、島本町、猪名川町については対象となる一般病床200床以上の病院が存在しなかった。また『近畿病院情報』掲載の神戸赤十字病院須磨分院(200床)からは、平成15年4月1日より神戸赤十字病院附属須磨診療所(19床)となったため回答を遠慮するとの丁寧なお返事を頂戴した。
- 5) 調査用紙の発送、回収、回答データの入力について「音楽によるアウトリーチ(実習)」受講生(後藤京子、池田佳世、中ノ祐子、瀬津真理子、志伊理絵、田中奈津紀、山下早綾香、井原麗奈)の協力を得た。授業での議論からも得るところがあった。ここに記して謝意を表する。
- 6) ただし第二協和病院(2003年10月1日開院)については病院側からの送付資料によっている。
- 7) 具体的には多根総合病院(no.10)、千船病院(no.11)、大阪市立十三市民病院(no.14)、第二協立

病院（no.62）の4院である。病院名の後の（no.XX）は「病院番号」を示す（以下同じ）。

- 8) 神戸大学医学部附属病院（no.42）。
- 9) 市立芦屋病院（no.65）。また昨年七夕コンサートとクリスマス・コンサートでお世話になった大阪大学医学部附属病院（no.36）も、職員ボランティアによる実行委員会制を採っていた。
- 10) 市立豊中病院（no.31）、市立芦屋病院（no.65）。
- 11) 日生病院（no.9）、大阪市立十三市民病院（no.14）、大阪警察病院（no.18）、済生会茨木病院（no.37）、甲南病院（no.41）、これに済生会千里病院（no.35）も加えることができるだろう。
- 12) 医療法人、医療法人社団、医療法人財団、特定医療法人、特定医療法人社団をまとめた数字である。
- 13) 千船病院（no.11）の依頼により2003年9月20日の「健康まつり」に30分の音楽プログラムを派遣した。

本論は神戸女学院大学研究所2003年度研究助成（研究課題名「地域社会における音楽の活用について」）によって支えられている。ここに記して感謝する。

（原稿受理 2003年12月10日）